

洪水の流出計算を行うための雨の分類（有効降雨解析）

洪水の流出計算、つまり洪水量を計算するということですが、これは、雨量を洪水量に変換することを意味しています。従って、多くの雨量データを収集することが最も基本となりますが、観測された雨量データの中には、川に流れてこない**樹冠遮断**や**凹地貯留**、**地下浸透**によって一時的に貯留され洪水後に出てくるような無効な降雨（損失降雨）が含まれています。

よって、洪水流出計算に用いる雨量は、全体降雨量から直接洪水に影響しない損失降雨分を差し引いたものを使わなければなりません。この雨量の分離作業を**有効降雨解析**といいます。

